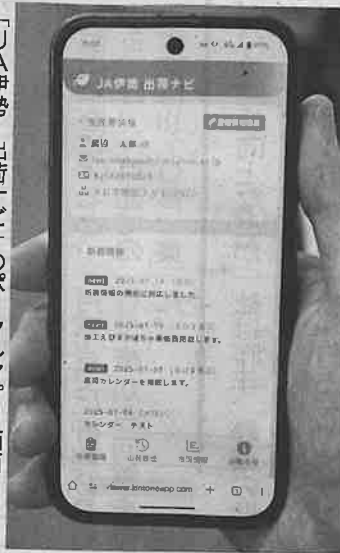


# 農家向けアプリ集約

## JA伊勢 出荷と市況まとめ効率化

【三重・伊勢】JA伊勢IT・DX対策課は、農家向けアプリ「JA伊勢 出荷ナビ」を開発した。同アプリは農作物の出荷数量の登録、出荷履歴の確認、市況情報の閲覧、JAからのお知らせを受け取れる生産者向けの個人ポータルアプリ。機能を一つにまとめることで、農家とJAの間の情報の伝達速度が速まり、作業負担の軽減が期待される。



「JA伊勢 出荷ナビ」のポータルアプリ画面  
(三重県度会町で)

同課は3年前から、農産物の出荷登録のデジタル化に取り組み、作業負担の軽減や市場への有利販売につなげてきた。しかし、市況情報は職員が集荷場に毎日価格を掲示するなど、手間がかかっていた。また、機能ごとにアプリを作成したため、複数のアプリを個別に管理し、ログイン認証の上で利用しても

らうなど、利便性で課題があった。

そこで、同課では営農部署と連携し、これまで運用してきた農産物出荷登録アプリと市況情報をひもづけられ

ないか、検討を開始。

7月から始まる「えびすかぼちゃ」の出荷に合わせて、ポータルアプリの運用を始めた。同課の担当者は「出荷ナビを開発したこと

で、組合員にとって煩わしかった管理や認証の手間を削減し、必要なサービスを一元化できた。引き続き、利便性向上を進めたい」と話す。